



プロジェクト課題No.3

次代を担う生産者の育成による 梨産地活性化

写真：R4.8月上旬 梨産地実地調査

活動期間：令和5年度～令和7年度

対象者：JA仙台利府梨部会 部会員4人（同部会員61人）

チーム員：高橋真紀、守屋明良、高橋晋太郎

1 課題の背景・ねらい

〈背景・ねらい〉

- JA仙台利府梨部会員は61人、面積は約20ha。園主の高齢化等により、部会員と面積いずれも減少傾向。
- 支援対象者の4名は、新技術・省力化技術等への関心が高く、重要な担い手として育成することにより産地の活性化に貢献できる。
- 当地域で設立される果樹産地協議会を通じ、果樹経営支援対策事業(国)の活用支援も期待されている。

【令和5年度 定性的目標】

- 基礎的な技術の習得と新技術・新品種への理解が深まる。
- 担い手の交流活動が促進される。
- 産地活性化に向けた計画が策定される。

2 活動内容①

(1) 安定生産・高度品質化技術の理解促進

①省力化・新技術導入

②技術情報資料発行 8回発行

目的

内容（技術）

期待できる効果

防鳥作業の省力化

防鳥ワイヤーの設置

- ・作業者への安全・省力化・低コスト化
- ・耐久性への期待
- ・カラスの被害は確認できなかった

「あきづき」の
収穫時期前進

ジベレリンペースト処理

- ・収穫期の前進
- ・肥大促進

そのほか、「新品種の導入」「天敵利用」「コンフューザー利用」などの項目がある

利府なし生育情報(8月号) 令和5年8月17日発行
【発行】宮城県仙台農業改良普及センター
電話 022-275-8374

1 これまでの天候



2 これまでの生育状況

■果実肥大状況
調査地点：利府町春日、調査日：8月10日（「幸水」満開117日後、「あきづき」満開118日後）

品種	タテ径(mm)	ヨコ径(mm)
幸水	令和5年 83.1 前年比(%) 105	77.2 107
あきづき	令和5年 85.4 前年比(%) 104	78.2 104
	平均値(%) 110	111

【添削メモ】
◎満開は昨年より10～14日程度早いので、肥大は進んでいる。
◎生育進捗状況
・果実肥大の進捗は少ない。
・タテ径がスポット的に発生している。

2 活動内容②

(1) 安定生産・高度品質化技術の理解促進

③栽培講習会・巡回指導

現地検討会 7月



病害虫に関する相談対応



2 活動内容③

(2) 担い手の交流活動の促進 勉強会（病害虫）、産地視察



若手生産者で千葉県船橋市にある（株）第一肥糧の工場を見学（小ロットの完全オーダーメイドの有機質肥料を作ってくれる）

土壌と肥料に関する研修会 （10月と11月に分けて開催）



宮城県なし栽培研修会



2 活動内容④

(3) 産地活性化に向けた計画策定支援



利府町農林水産課、J A 仙台と打合せ



産地協議会の立ち上げ（令和5年10月20日）

3 これまでの活動成果①

(1) 安定生産・高度品化技術の理解促進



防鳥ワイヤー設置の様子

(他産業では防鳥ワイヤーの使用実績あるが、農業分野では初) 定点カメラ設置による効果判定
→被害は確認されなかった

設置のノウハウも得られた



ジベレリンペースト処理を行った「あきづき」
→対照区に比べ、10日ほど収穫期が前進し、
肥大は110%

3 これまでの活動成果②

(2) 担い手の交流活動の促進

- ・7月 肥料会社や農研機構(つくば)を視察
- ・9月 土壌採取から指導 10月 肥料に関する研修会 11月 土壌研修会
- ・12月 宮城県なし栽培研修会

(参加者からのコメント)

- ・勉強になった。
- ・来年もやってほしい。
- ・過剰に養分が入っていることが分かってよかった。

(3) 産地活性化に向けた計画策定支援

- ・10月20日 果樹産地協議会の設立
- ・産地計画の策定支援→2月中に完成予定

4 今後の対応

(1) 安定生産・高度品質化技術の理解促進

- ・引き続き新技術導入の調査支援、効果測定を行っていく。
- ・「生育情報」で技術の効果、内容を情報発信する。
- ・優良な新品種の導入支援（県育種の新品種も含む）

(2) 担い手の交流活動への理解促進

- ・他普及センターとの連携により、若手交流を図る
- ・新規就農希望者支援（地域おこし協力隊1名）

(3) 産地活性化に向けた補助事業活用支援

- ・事業活用者のニーズの把握
- ・町独自の補助事業の充実を図るため、天敵製剤を活用した防除暦作成支援